

3 4 我が署の特別増収対策

石巻営林署 生産係長 ○宮嶋利之
" 生産係 桜井 正

はじめに

我が署は、増収対策の一貫として始まった一署一品運動に早くから取組み、各種のイベントに積極的に参加し実績を上げてきました。主なものとしては次のとおりです。

表-1 イベントの内容

1	森林教室・	小学生と分収育林のオーナーを対象として植樹祭も兼ねる
2	森林浴の集い・	分収育林のオーナー募集も兼ねる (有 料)
3	宮城緑の祭典・	仙台市 各種団体 (一署一品販売)
4	東和町とキノコ祭り・	東和町 (一署一品販売)
5	石巻営林署即売会・	署駐車場 (半製品販売)

これらの、イベントは、収入委員会を中心に署を挙げて展開してまいりました。

特に、当署の目玉にしている即売会は、市内はもとより、近郊町村をはじめ仙台市等からも訪れるほどです。

緑資源の有効な活用方法として高く評価し、地元新聞は、開催の様様について掲載し広く市民にアピールされています。

今では、地域の行事として深く根つき重要な存在となっています。こうした即売会も地域に定着するまでには、さまざまな苦勞と職員全員の協力と努力、創意工夫があったからです。

昭和61年に第一回目の即売会を始めてから8年間・10回にわたり開催し、一定の成果を挙げてきましたので石巻営林署即売会の取組状況とその成果について発表します

I 目 的

石巻は漁業を主な産業とし、中都市に位置すること等もあり地元では営林署の存在について認識が浅い面もみられる状況の中で、改善計画を進めるにしても果して地元の理解と協力が得られるかどうかという心配な面もあり、なんとかもっと市民に身近かな国有林となるための方途として思考錯誤の中から考えついたのが、一署一品運動の活用とその工夫で、そこから産みだされたのが展示即売会でした。

実施するにあたって、次のことを目的として実行しました。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1 市民に営林署をPRできること。 | 2 資源を有効活用（端尺材等）すること。 |
| 3 特別増収対策の一貫とすること。 | 4 木のよさを知ってもらうこと。 |
| 5 無理なく長続きできること。 | |

II 企 画

次長を総括責任者とする収入対策委員会を必要に応じて開催して協議しました。
表一 3 収入対策委員会規約

- | |
|---|
| 1 <u>収入対策委員会の構成</u> は、石巻営林署の収入確保のために広く職員から意見を聞き、それを各事業に反映させるために設置する。 |
| 2 <u>検討事項</u> は、次の事項について検討し、その内容を署長に具申するものとする。
(1) 収入確保のための情報に関すること (2) 収入確保のための計画に関すること
(3) 収入確保のための実施に関すること (4) 収入確保のための他に関すること |
| 3 <u>構成員</u> は、次のとおりとする。なお事務局は事業課におく。
(1) 委員長 次 長 (2) 副委員長 総務課長
(3) 事務局長 事業課長 (4) 委 員 各 課 2 名 |
| 4 <u>委員会の開催</u> は、次の場合に開催するものとする。
(1) 署長から指示があるとき (2) 委員長が必要と認めるとき
(3) 多数の委員から要求あるとき |

昭和61年 8 月 1 日から実施する。

1 商品制作の基本的な考え方

私たち職員が物を作るといっても、市販の商品にはとてもかなわないので営林署でしか買えないオリジナルなものを中心に、次のようなことをポイントに、自分で作る喜びを味わってもらおうという願いをこめて商品を開発した。

- (1) 半製品の商品であること
- (2) 他に販売していないオリジナルな物
- (3) 家庭中心の商品であること
- (4) 地域の木工品販売業界等を圧迫しないこと
- (5) 商品の種類を多くすることに心掛けること

2 原木の収集

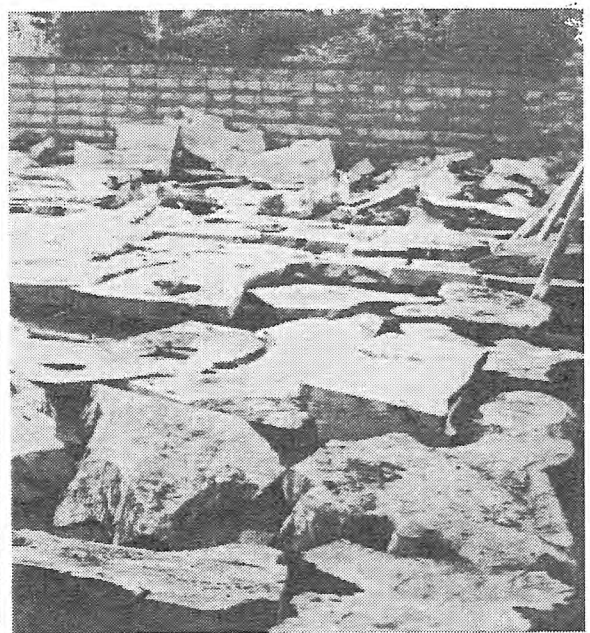
委員会が中心となって、森林官等の協力により情報収集し、管内に散在している原木を現場の出張等を利用するなど、効率の良い運搬をもとに収集している。

3 商品の制作

原木は多種多様であり、一個一個の特徴をいかに生かすかの見極めが、最後の商品価値を左右するとともに、これは、経験と技術を必要とするため一個ごと指示し木取りをしてくる。

表-4 使用樹種・商品名

主な樹種	商 品 名
ケ ヤ キ	テーブル板 花台
イ タ ヤ	衝立板 框
ヒ ノ キ	欄間板 火鉢
ス ギ	床柱 塵取り
ク ル ミ	壺用原木 竹支柱
ホ オ	スツール 竹杖
サ ク ラ	端尺板 竹箒
サンショウ	まな板 草木類
カ ヤ	すりこぎ 襖の棧



写-1 展示状況

Ⅲ 地域へのPR

宣伝の良否が販売に大きく影響し、イベント成功の最大のポイントとなることから、身近にあるマスコミをフルに活用し広く地域へのPRに努力した。

- 1 庁舎前に看板、横断幕を設置
- 2 「チラシ」3000枚を新聞折り込みで配布
- 3 地元新聞社へ記事掲載依頼
- 4 5年度はNHKのガイド案内で放送宣伝

図-1 好評の署制作チラシ

木の温もりで生活を豊かに

即売会
10月27日(日)
/日限り

欄間板 ほどいろいろ
衝立板
山取鉢物(重木類)など

マナ板(ヒキ)大中小 200円より

板類
山桜、ホホ、ケヤキ、外 300円より

植木用タケ板 100円より

ツツル 300円より

ケヤキ一枚板 高級テーブル原木
特級品は特価(入札します) 5000円より

野外テーブル 15000円より

花台(ケヤキ) 100円より

竹支柱 3本 100円より
薪作りに最適です
竹根付(長身電甲竹) 300円より

その他いろいろあります

展示会場 石巻営林署駐車場

時間 午前10時より午後3時まで

数量に限りがありますので お買求出来な
い場合はご容赦下さい。

すべて半製品です。お好みに仕上げて
下さい。

石巻営林署 TEL 95-1158-9

IV 販売活動

1 展示即売会

お客の集まり易い日曜日を選んだ。

2 商品の配置

入口から、人気商品、小さく買やすい物、安価な物、後部に特殊なもの、大きいもの、高価なものとの配列した。

3 価格の決定

職員、委員会の意見、市況を参考に署長、次長、事業課長の三者で決定した

4 需要の動向（お客）

即売会に来る市民は、平均すると150～200名程になると推定しています。年齢的には50歳前後が一番多く、職業別には主婦、商店主、サラリーマン、木工関係者、その他となっています。

男性はテーブル板、角類、女性はまな板、花台、すりこぎ、鉢物、を購入していく傾向にあります。また、特に目的をもって来る人は少なく、とにかく見るかという人が多いようです。

5 隣接営林署との協力

中新田営林署の出張販売も定着しており相乗効果となっています。



写-2 看板掲示



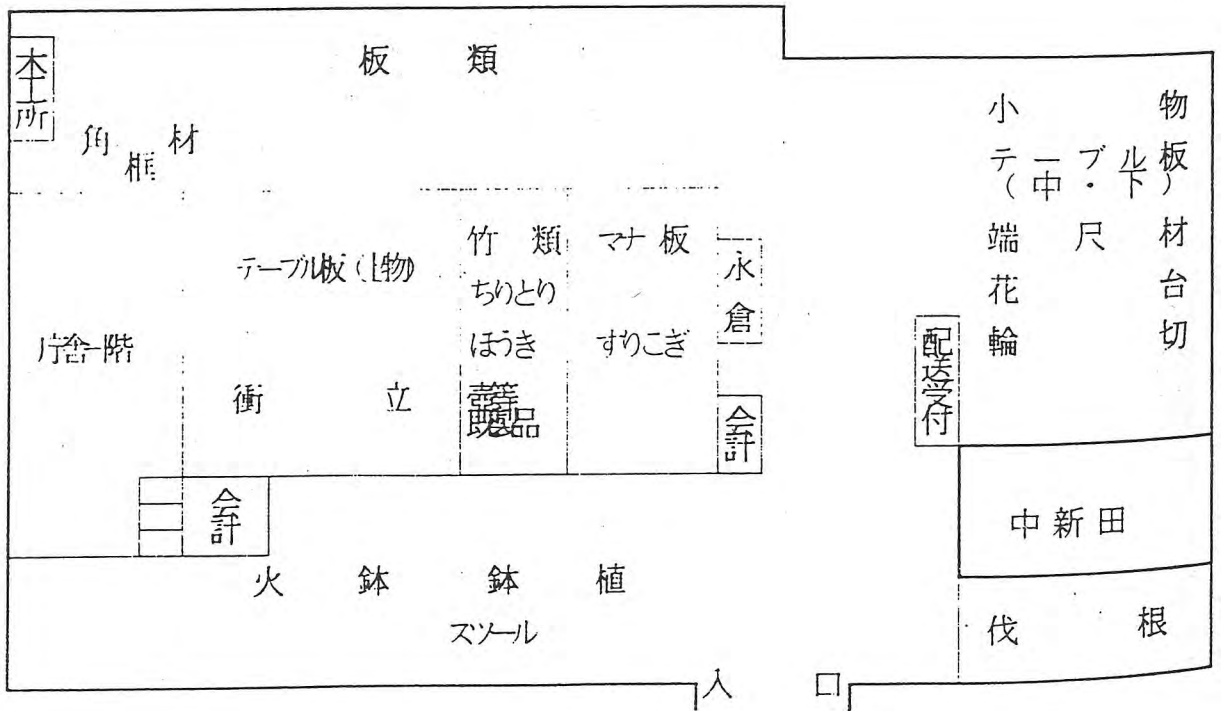
写-3 会場風景

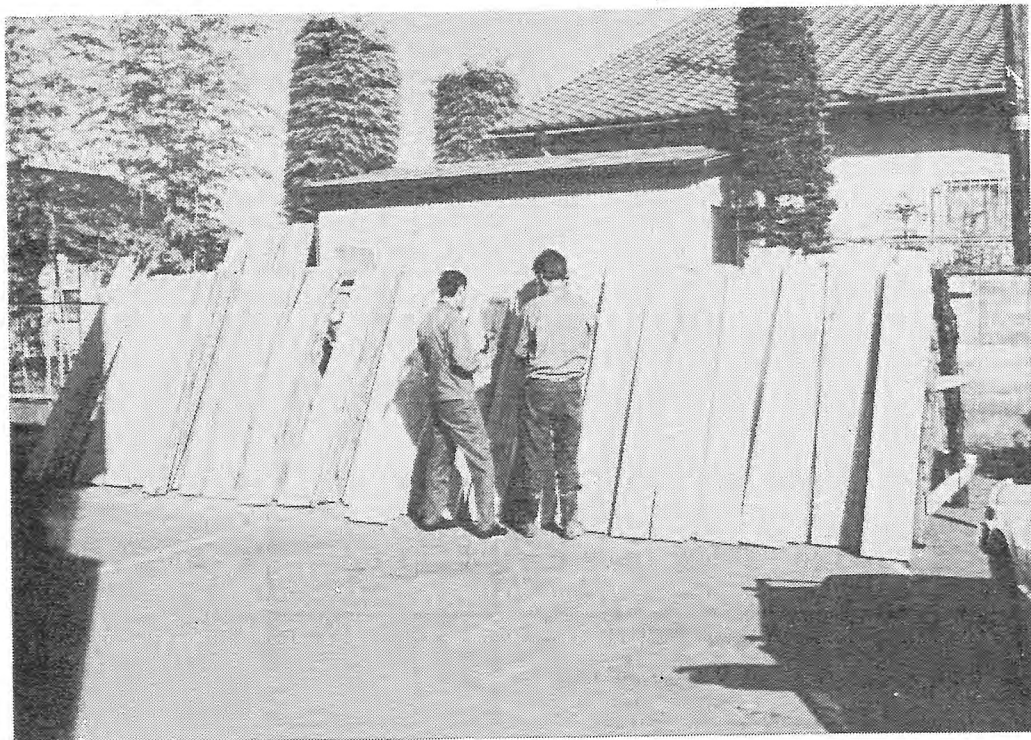
販売当日の職員の数と配置図

特定事業産品即売会配置図

人員配置	
総括責任者	次 長
会 計	岡 崎 稔
	佐 藤 大
	宮 嶋 敏 晴
	大 村 美和子
渉 外 署	長
	酒 井 武
	斎 藤 秀 子
会場案内	事 業 課 長
	甲 谷 健 嗣 佐々木 昭 義
	宮 嶋 利 之 櫻 井 正
	小 原 芳 信 門 脇 利 次
配達受付	経 営 課 長
	藤 本 晴 亮 村 上 重 雄 巳 芳 男
	川 口 住 内 正 慶 義 治 今 川 及 野 畑 輝 守

産品配置図





V 取組の成果

- 1 8年間という実績の積み重ねが功を奏して、年々売上が増える傾向にあり市民の理解と期待も大きくなっている。
- 2 即売会・木の話等、あらゆる所で聞かれるようになった。
- 3 年度当初、特別増収として目標額が示される、これを達成するために署を挙げて取り組んでいるが、特別な収入源もなく苦慮する当署では大きな収入源となっている。
- 4 職員一人一人の理解が浸透し「樹」に対する色々な見方と多様な価値観が生まれ、日常の業務に活かされている。

表-7 売上実績

	展示即売会 (一 暑 一 品)	備 考
61年度	696,000	2回
62年度	509,350	
63年度	674,300	
元年度	973,500	
2年度	1,321,900	
3年度	1,829,800	2回
4年度	1,000,000	
5年度	2,200,000	
言十	9,204,850	

Ⅵ 考 察

- 1 将来、石巻営林署管内のケヤキの伐根等の資源が不足し、需要に応じられなくなることが予想される。従って、資源はあるが市場がない隣接営林署と業務提携し継続性を求めなければならない。
- 2 当署の即売会で原木を購入し制作した作品の展示と、地域の人々との交流、イベントの発展を図る。
- 3 商品の常設販売コーナーの設置により日常的な交流を図る。
- 4 広葉樹の低質材活用による商品の開発がもとめられる。
- 5 今後は、売手側中心の殿様商売ではなく、より買い手の身になった前垂れ商法でなければと強く感じている。

以上の課題を克服して、これまでの成果を更に前進させ、国有林と地域とが相互に発展できるよう一層励んでいきたいと思えます。